



# AIYES 通信

横浜スペイン協会会報

発行・横浜スペイン協会事務局

## 2008年度定時総会開催のご案内

2008年度の定時総会を下記のとおり開催いたします。会員の皆様、お誘い合わせの上ご出席お願い申し上げます。また総会終了後、簡単な懇親会を同じ会場にて予定しております。

記

- 日 時：2008年5月11日（日）14：30～  
場 所：県民サポートセンター7階/711号室  
議 題：1. 2007年度活動報告と決算  
2. 2008年度活動計画案と予算案  
3. 新役員の紹介  
4. その他

## 「AIYES通信」50号に寄せて

副会長 宮崎 紗伎

「AIYES通信」の編集に関わるようになって随分になります。「AIYES通信」を発行する迄の編集責任者のご苦勞は並大抵ではなく、本当によくやって下さったと感謝しています。そして50号迄漕ぎ着けられたのは、編集委員の協力の賜物です。ありがとうございます。会員の方々が「AIYES通信」を通して協会に興味を持ち、積極的に活動に参加しようという気持を持っていただけたら、こんなに嬉しいことはありません。長く続けてゆくには皆様の協力が不可欠です。皆で「AIYES通信」を作ってゆきましょう。よろしくお願い致します。ありがとうございました。

## 「AIYES通信」50号を顧みて

編集委員 鈴木 生雄

「AIYES通信」が50号を迎えました。会報初代編集責任者の飯塚さん（当時常務理事）と知己であったことから、創立時より協会に入会しました。そして編集経験があるということから、創刊号から「AIYES通信」の制作にかかわるようになりました。そこでこの機会に編集する立場から会報を振り返ってみたいと思います。ただし本来ならば、各号の内容や当時の協会の活動状況を伝えるべきなのですが、現在協会ホームページで創刊号から50号まで閲覧出来るようになっておりますので詳しくはそちらにお任せすることにして、会報の担った役割などを知っていただけるようなことを記したいと思います。

創刊号は1990年11月に発行されました。その年の7月に設立総会が行われ、それを受けての発行でした。会報名は「横浜スペイン交流協会会報」。まだ「AIYES通信」の名はありません。内容もお祝いの言葉が続き、創刊号は必然的にこのような内容にならざるを得ないのですが、そのような中に会員の紹介がありました。

当時はスペイン・サロンやホームページなど会員の交流の場が何もない環境でしたので、少しでもお互いを知ってもらおうと入会申込書から一言を頂戴した次第でした。それは現在の新入会員紹介となって続いており、また15周年記念号（47号）では現会員の皆さんの協会への思いを披露するなどその姿勢は変わって

ません。

とにかく会報を発行したということで協会の存在を知らしめることになったと感じました。そして第2号から当時の協会のスペイン名である「Asociación de Intercambio entre Yokohama y España」の頭文字をとって「AIYES通信」と命名し、会を代表する顔として今日にいたっています。

さて「AIYES通信」は商業誌ではありません。ですから発行日は決めていてもある程度融通をきかすことは可能です。ちなみに現在では年3回、1、5、9月初めに発行ですが、協会のホームページ開設以前は、年間4回発行していた時期もありました。また協会発足時は全くの不定期発行で、大きなニュースや会員への告知事項のある時にだけ発行するといった状態でした。それでもなるべくホットなニュースを発行予定日に届けるべく綱渡りをすることもあります。17号がまさにそれでした。発行は98年9月末、通常なら8月中には原稿を揃えなければならないところです。しかし8月末からロンダ市で行われたペドロ・ロメロ祭に招待を受けて会長をはじめ6名の会員が訪問することになっていました。「これを記事にしない手はない！」と時間がないのは承知の上で原稿を依頼し、印刷所にも無理をお願い、かつ通常より4ページ増の会報が出来上がりました。帰国は9月6日、原稿執筆にお手伝いはしましたがとにかく発行まで一気に突き進みました。写真もデジカメなど無い時代ですから急いでプリントして間に合わせるなど最後の校正が終わった時はホッとしました。そして今は亡き下山会長夫人をはじめ帰国後一息入れる間も無くご協力いただいた皆さんには本当に頭が下がる思いでした。その後はこれほどの離れ業は使っておりませんが、スペイン・サロンをはじめなるべく直近の出来事まで掲載するように心掛けています。

しかしこの離れ業もコンピュータの賜物といえるでしょう。この17号が発行された98年頃には少なくとも印刷所レベルではコンピュータが導入され画面の上で原稿入力から版下作成まで出来るようになっていましたが、それ以前は単純に言えば手作業の時代でした。そんな頃、会報のO A化に寄与していただいた田中さんと中間さんという会員の方がおられました。田中さんには円グラフなどいわゆる図版関係をワープロで作成していただき、中間さんにはパソコンで当時一般にはまだめずらしかったD T Pソフトを使って、原稿入力からレイアウトまで面倒を見ていただきました。現在は原稿の執筆からレイアウトそしてメールでの原稿の送信とコンピュータ抜きでは考えられないほどの時代ですが、まだワープロがようやく普及し始めたという頃に「AIYES通信」の制作に大いに役立ったことはいまでもありません。今はお二人とも都合により退会されていますが、いまさらではあります紙上を借りてお礼を申し上げる次第です。

また、現在の「AIYES通信」のタイトル周りのデザインは、協会設立当初から会員でグラフィックデザイナーの児玉喬夫さんが、ボランティアで協力してくださいました。併せてお礼を申し上げます。

いくらコンピュータが便利といえども人の手に頼らざるを得ない作業があります。それが校正です。

お馴染み横浜駅西口の県民サポートセンターに編集委員が集まり2時間くらいかけて行いますが、この作業はただ字面を追って訂正を入れるだけではなく、時には表現や文章そのものの修正も行います。

41号は協会創立15周年記念で32ページの特別号でした。これを校正するには通常号8ページで2時間とすると8時間。朝から晩までの仕事になってしまいます。そこであらかじめ編集委員に校正紙をお渡しして編集委員会当日までに目を通していただくことにしました。おかげでスムーズに作業は終了しましたが、前述のようにこの号には会員の一言を掲載しましたので、むしろ楽しみながら校正ができたのではないのでしょうか。なおこの号は記念行事に併せて発行を一ヵ月ずらししました。ボリュームだけでなく表紙をカラー印刷にしたことと相俟って15周年記念に花を添える会報となりました。

取りとめもなく述べてきましたが、個人的には「AIYES通信」には「手作りの良さ」を求めていきたいと思っています。言い換えれば「商業誌では出来ない情報誌」を作りたいということです。スペインが好きで集まったメンバーです。その情報量たるや計り知れないものがあるはずで、その一人の会員の情報を多くの会員に伝えるのが「AIYES通信」の役割と考えています。もちろんこれには会員の方々の協力を仰がねばなりません。たとえば文章を書くのが苦手でも会報に対する意見など教えていただければ大いに参考になります。

「AIYES通信」の最終ページには編集委員名を記載してあります。気がついたことがあればこのメンバーにお声をかけてください。いただいたネタをどう調理するかは編集委員の腕の見せ所です。これからも「AIYES通信」をよろしく願います。



▲「AIYES通信」創刊号



▲「AIYES通信」41号

# スペイン大使夫人と三溪園で観梅会

明治41年2月、原三溪が梅林の完成を祝って知人を招いて行ったことに始まる三溪園の恒例の観梅会開催の期間中、駐日スペイン大使夫人をお招きして催した横浜スペイン協会の観梅会は、前日にも増して温かな日和に恵まれ、2月23日（土）午前10時、下山会長以下参加会員27名と三溪園の安田園長がお待ちする中、大使夫人の到着を待って始まりました。今回はさらにベネズエラから一時帰国された小原京子さん（元スペイン大使館文化部・現在横浜スペイン協会特別会員）も加わり、和やかな雰囲気以案内のベテランガイド川幡さんと事業課長の中島さんの案内で鶴翔閣・白雲邸・臨春閣を見学の後、内苑の重要文化財の建物を見て、梅林に入り、ふくよかな梅の香と咲き誇る水仙を愛で、旧燈明寺本堂で会員で箏演奏家の児玉寛子さんを中心とする箏と尺八の演奏を聴きました。「春の海」から「千鳥」に至る日本人の感性に響く演奏を楽しんだ後、正午過ぎに園を後にし、「隣花苑」の昼食会に向かいました。



▲大使夫人を囲んで参加者全員の記念撮影

この隣花苑の建物は静岡県静岡市の廣瀬神社の神官 西島家を移築した約600年も時代を経た建物で「隣花苑」の名称は三溪翁の五言「隣花不妨賞」より採って命名されたものとのことです。入り口の土間から上がり、いろり端を抜けて奥の部屋が私たちの為に用意されており、床の間には早くもお雛様が飾られ、掛け軸・生け花共々早春の空間の中で、季節のお食事をいただきました。大使夫人も気軽に二つの部屋を移動され会員達と談笑されておりました。午後の3時にお開きとなった頃から急に天候が一変、黄砂に覆われた空から寒風が吹いて、また寒い冬の日に戻ってしまいました。

## 歴史と文化を知るスペイン・サロン

### ●2月のスペイン・サロン

「フリートーカーキング」＜あれこれ情報・スペイン談義＞

日時：2008年2月16日（土）13：30～15：30

会場：県民サポートセンター7階／711号室

はじめに昨年末NHKラジオ深夜便で放送された、マドリードの年末風景やスペインの最近1年間のニュースレポートのテープを聞きました。イルミネーションに輝くグランビア通りやシベレス広場の様子、クリスマスシーズンに走る観光バス「ナビブス」、年末の物価高で鯛が1キロ1万円もするという話。また、3月9日の総選挙に向け政府が打ち出したベビーチェックという子育て支援（一律約40万円）の小切手支給、新幹線AVEのマドリードーマラガ間が開通し（2月20日にはマドリードーバルセロナ間も開通）所要時間2時間半になるという話などなど。



▲「SOBA」の話に盛り上がりました

次に朝日新聞の記事にも載った「SOBA村で信州そば」の話題の主人公と直接の知人である佐藤さんが詳しい事情を説明。北スペインのコミージャスで昨年10月に行われた食文化交流フェスティバルで信州そばの「そば打ち実演」をすることになった長野の人たちが、どうせやるなら種蒔きからすべてスペインで行おうと計画、偶然にも近くにSOBAという名の村の存在を知り、スペイン人達の協力のもと種を蒔き（7月）収穫したそばで、ついには見事「信州そば祭り」を実現、スペイン人たちにも大好評だったというストーリーです。出席者からスペイン人にそばが食べられるのかとの疑問があがりました。実際には温かい「かけそば」はスペイン人に人気があったとの話に、ひとしきりそば談義が繰り広げられました。

そのあと、6月から始まるサラゴサの万博の話から、高柳さんがソリアからサラゴサへ行く街道筋で立ち寄った「カラタニヤソル」という、人口わずか40人という小さな村の木作りの家々に感動した話が披露されました。

最後に横浜スペイン協会のホームページに、＜スペイン便り＞を送ってくださっているカナリア在住の吉さんからの「ラテン諸国首脳会談でスペイン国王がベネズエラのチャベス大統領を一喝した」件のコメントを紹介。賛否両論ありますが、スペイン国内では多くの人が拍手喝采をおくっているという話に、スペインびいきの協会会員も国王の国民に対する愛情が感じられ、喝采をおくりたいと思っている人が多いようでした。一方、同じくホームページに＜カラカス便り＞を送ってくださっている小原さんの話で、ベネズエラではスペイン国王の一喝の言葉が巷での流行語になっていたとのことです。このように興味深い世界の生の情勢がリアルに味わえる協会のホームページ、皆さん時々チェックしてみたいものではないでしょうか。

久しぶりのフリートーキングでしたが、若い人、新しい人も加わった14名の参加者があり、打ち解けておしゃべりするにも丁度良い人数で、和気あいあいの会でした。スペイン・サロンとしては、誰でも気軽に参加して楽しくおしゃべりが出来る、こういう集まりの回数をもっと増やしていきたいものと感じました。（寺原瑛子）

## ●3月のスペイン・サロン

### 「親睦パーティ」

日 時：2008年3月8日（土）13：30～16：00

会 場：波止場会館 多目的ホール

今回のパーティは、波止場会館で毎月第2土曜日に開いているスペイン語の歌を歌う教室「マグノリア」とのコラボレーションで行われました。まずは、栗山先生がこれから歌う歌（ラ・クカラッチャ、シエリート・リンド、アマポーラ）の歌詞の説明、その絶妙なユーモアあふれるお話に会場は爆笑につつまれ、続く「マグノリア」クラスの生徒さんによるコーラスで出席の皆さんは一気に盛り上がり、パーティは始まりました。スペイン人のベラスコ先生、ベアトリス先生の紹介、下山会長の音頭によるワインでの乾杯の後は、持ち寄りの料理やトルティージャ（スペイン風オムレツ）、おにぎり、サンドイッチなどをつまみながらにぎ



▲「クラベリートス」を合唱

やかに歓談。久しぶりに会う会員同士の会話や、初めての方々との出会いなどいろいろな楽しい場面がありました。特にスペイン人が参加されているので、スペイン語も飛び交う「スペイン・サロン」らしい風景でした。

パーティの成功というのはつくづく皆の協力で成り立つものだと実感しました。パーティ準備のため重い荷物を運んでくれた方、トルティージャや料理を作って持ってきてくれた方、ワインを寄付してくれた方、飲み物のサービスや見えない裏方の仕事に気配りをしてくれた方、コーラスで場を盛り上げてくれた「マグノリア」のクラスの方々はもちろん、他に得意なフラメンコの palma（手拍子）でコーラスに参加した方や、

ソロで歌を歌った方(バスクの歌を歌ってくださったベラスコ先生も含め)、カメラで記録を撮ってくれた方、最後は後片付け、ゴミの処理まで手伝ってくれた方などなど……40名の出席者の皆さんがそれぞれに何らかの形でパーティへの参加の意志を表わしてくださいました。その協力に支えられて本当に楽しく素晴らしいパーティになったと思います。心から皆さまに感謝いたします。

そしてもう一つ、この会に3人のスペイン人が参加して下さったことが、一段とパーティを彩ったと思います。最後に協会のパーティでは恒例となっている歌「クラベリートス」を皆で合唱しましたが、スペイン語の歌も一緒に歌え、スペイン人も参加しやすいこのような企画を、今後も一年に一度は出来たら良いなと思いました。

「スペイン・サロン」が今後とも皆さまの気持ちに支えられ、会員同士の「楽しい交流の場」であり続けることを願っております。(寺原瑛子)

## 会員投稿

# カミーノ・デ・サンティアゴ

問屋 正勝

スペインに巡礼路「カミーノ・デ・サンティアゴ」があると聞き、定年退職したら是非行きたいと思ったのは6年前のことでした。そのとき以来足腰を鍛えるため、丹沢、箱根、北アルプス、八ヶ岳、尾瀬など関東近辺の山々を毎週のように歩きました。スペイン語の勉強など5年以上にわたる準備の後、昨年8月22日、日本を出発しました。ピレネー山脈の東麓、サン・ジャン・ピエ・ド・ポーから歩き始め、33日後に800 km離れた目的地サンティアゴ・デ・コンポステーラに着いたのです。寝袋のほか必需品一式を入れた12 kgにもなるリュックを背負い、質素な巡礼宿(アルベルゲ)に泊まりながらの徒歩旅行でした。日本で山歩きをしているときには、筋肉痛、膝の痛み、マメ、転倒などトラブルを沢山経験しましたが、巡礼中にはそういったトラブルはほとんどありませんでした。あるアルベルゲの祈りに参加したとき、「いたずらに先を急ぐな。カミーノに歩かされていると思って歩け。カミーノが与えてくれるものを楽しめ」という話を聖職者から聞きました。この言葉が頭から離れず、カトリック教徒ではないのですが、いつしか神に感謝しながら歩いていました。サンティアゴ・デ・コンポステーラに到着したときには、体重は5 kg減っており、厳しい旅行だったのだと思います。到着した日の正午に行われた大聖堂のミサには大変感動しました。

こうして巡礼を終えた後、巡礼中に約束してあったボランティアの仕事をするため、列車で戻り、人口30人のアヘス村に行きました。巡



▲サンティアゴ大聖堂到着の日

礼宿の管理人の

仕事を引き受け、2週間の間、部屋の掃除、食事の準備など宿泊者の世話をしました。宿泊者に出す夕食のパエジャ作りにも加わりました。その後、50 kmほど離れたカストロヘリス村の巡礼宿に移動し、ここでもボランティア管理人として2週間働きました。このことは巡礼を別の角度からじっくり眺めることになり、貴重な経験でした。

巡礼路は全体が世界遺産に登録されており、自然は変化に富み、村や町は中世の遺跡に溢れ、素晴らしいものでした。しかし、一緒に巡礼路を歩いた人たち、お世話になった巡礼宿の人たちとの心の交流はそれにもまして忘れがたいものとなりました。



▲アヘス村へ続く道

## ありがとう スペイン語教室を終えて

高柳 治子

2008年3月17日。偶然にも私の誕生日とかさなって、15年間横浜スペイン協会スペイン語講師として勤めてきた授業の最後の日を迎えました。スペイン語という美しい言語への学習に期待をこめて、たくさんの方々が教室で学ばれました。レッスン中に皆で「アマポーラ」の歌を聞いていた時、突然、隣の教室から「アマポーラに魅かれてやってきました。スペイン語を勉強したいのですが」と、一人の男性が入ってこられたこともありました。

憧れの国への思いを語り合い、いつの日か必ずかの国を訪れて、そこに住む人達と言葉を交わしたいという受講生の方達の熱い願いを感じ、私はその希望の実現に少しでもお役に立ちたいと願ってきました。

ふり返れば、あっという間に過ぎていった日々でしたが、この間私はいつも多くの喜びを受講生の皆さんからいただき、それによって私自身励まされてきました。

ある時は、パエジャやスペインオムレツなどを一緒に作ってテーブルを囲み、またある時は私の「アランフェス・トイレ脱出談」にクラス中を大笑いさせながらも、こわ〜い思いをさせたり、手話でのカフェ・オ・レがどうしても、あのような動作（左右のそれぞれの手で何かを掴んでいる仕草で、両手を近づけ下向けに少し下ろす）をするのか気づかせてあげたり……。スペイン語学習の間に私のスペインでの経験や失敗談などを織り込み、スペイン人の生活習慣、文化などを紹介していきました。

貴重な体験をさせてくださった受講生の方々、教室運営のために必要な仕事を一手に引き受けてくださった教室担当の会員の皆様、ありがとうございました。いつも喜びを持ってこのお仕事をさせていただけたことは、私にとって大きな財産の一つになりました。

スペインを愛する人達にスペイン語教室が、スペインへの思いをわかちあえる場として発展していきますよう祈りながら、会員の皆さま方、受講生の方々に感謝と喜びをこめて心からの御礼を申し上げます。ありがとうございました。



▲さようなら、アマポーラ。ありがとう、アマポーラ。

## 高柳先生のおかげで……。

渡邊 昭夫

スペイン語教室での長い間の誠意溢れるお仕事に改めて敬意と感謝を表したいと思います。本当に長い間ありがとうございました。

私としては、スペイン・サロンで高柳先生から教えていただいた「La Violetera（すみれの花売り娘）」が印象的です。必ずしも音が良いとはいえないテープレコーダと苦闘しながら、この曲の楽しさを伝えようとされた熱意が、後日私をマドリードの「花売り娘の像」探しに駆り立てました。教えていただいた歌詞の一部が書かれたパネルのついた像を探し当てた喜びは、その後のスペイン好きを加速させるのに十分なものでした。先生のおかげです。これからも機会あるごとに多くの方に楽しい夢を与えてください。そしてお元気で活躍されますように。

## ▶▶▶ スペイン語教室のご案内 ◀◀◀

協会主催のスペイン語講座は2008年4月から次のようになっています。授業は90分です。

**横浜駅西口教室** (県民サポートセンター 7階 神奈川区鶴屋町2-24-2)

●入門教室 「アマポーラ」(新規) 「ロサ」	月曜	10:30~	初歩の文法、日常会話等	山田るり子講師
	水曜	13:15~	基礎文法、会話	ラケル講師
●初級教室 「カメリア」 「クラベル」	月曜	13:00~	文法、講読、会話	ベアトリス講師
	水曜	13:15~	文法、講読、会話	ベアトリス講師
●中級教室 「アスセナ」 「ヒラソル」 「ビオレタ」	月曜	14:45~	文法、講読、会話	ビセンテ講師
	水曜	10:30~	文法、講読、会話	ベアトリス講師
	水曜	10:30~	接続法文法、講読	ラケル講師

\*各教室 原則月3回開催。定員は各教室15名。空席のある場合は随時入会可能です。

\*受講料： 入門教室1,500円/回

初・中級教室1,000円/回 (但し、10名以下の教室は1,500円/回)

半期分前納 (前期15回、後期18回)。会員以外は各期2,000円の事務費加算。

\*スペイン人講師は日本語も堪能ですが、教室ではスペイン語が中心です。

☞お問い合わせ・申込み：スペイン語教室 横浜駅西口教室担当 久保田 誠志

e-mail : l-spain@yokohama-spain.org (最初の文字 l はエル)

**海岸通教室** (波止場会館 大棧橋入り口手前左側 中区海岸通1-1)

●中級 「マグノリア」	第2土曜	10:30~	スペイン語の歌を覚える	栗山由美子講師
●上級 「アサレア」	第3土曜	10:30~	文学講読 スペイン語での講義	ベラスコ講師
●上級 「新聞・雑誌を読む会」	第4土曜	10:15~		栗山由美子講師

\*定員：マグノリア教室 15名 若干の空席あり

アサレア教室 10名 新規募集 (会員優先、多数の場合は抽選)

新聞・雑誌を読む会 15名 若干の空席あり

\*受講料：マグノリア教室 1,000円/回 半期分を前納。

会員以外は半期1,000円の事務費加算。

アサレア教室 1,500円/回 半期分を前納。

会員以外は半期1,000円の事務費加算。

新聞・雑誌を読む会 2,000円/回 半期分を前納。

会員以外は半期2,000円の事務費加算。

\*12月のみ、年末の休暇調整のため一週ずつ繰り上がります。

☞お問い合わせ・申込み：スペイン語教室 海岸通教室担当 中村 瑛子

e-mail : l-spain@yokohama-spain.org (最初の文字 l はエル)

# — 賛助会員各社の会員サービス内容 —

◆会員証の提示で、下記賛助会員企業より、表記のサービスが受けられます。

賛助会員	住 所	電 話 番 号	会 員 サ ー ビ ス 内 容
レストランオリーブ	横浜市西区高島2-5-10	045-441-4996	サングリア1杯無料
カサ・デ・フジモリ関内本店	横浜市中区相生町1-25	045-662-9474	サングリア1杯無料
Bar Español	カサ・デ・フジモリ関内本店前	045-651-1074	サングリア1杯無料
カサ・デ・フジモリ目黒店	JR目黒駅（東京）徒歩5分	03-5420-5328	サングリア1杯無料
(有)フレア	鎌倉市大船2-17-8	0467-42-8531	押し花体験費用の割引
日西商事（うさぎのいる島）	横浜市戸塚区品濃町252-3	070-5024-8196	ワイン1杯無料

## //////////////////// 新入会員紹介 //////////////////////////////////////

### 佐藤 陸雄 (Rikuo Sato)

横浜市港北区 2008年3月1日入会

大学時代はスペイン語専攻でしたが、64年頃から現在に至るまで旅館の経営コンサルタントをしています。81年から95年まで欧州観光余暇行政調査団を企画した中で、パドール予約センター、バルセロナ市役所、イビサ市役所、コスタ・デル・ソル観光協会など公式訪問先に組み入れました。

現在スペイン語とは無縁でほとんど忘れていますが、もともとスペインが好きですから、多少でも交流に貢献できればと入会しました。

## \*\*\*\*\* 事務局からのお知らせ \*\*\*\*\*

### ◆会費納入のお願い

本会報に同封してあります「振り込み用紙」で、2008年度の会費をお近くの郵便局からお振り込みください。なお、2008年1月1日～3月末日の間に新しく入会された方は、2008年度年会費は免除されます。

### ◆協会創立20周年記念事業企画募集

2010年7月7日、当協会は設立20周年を迎えます。そこで、2010年4月1日から12月31日の間、いろいろな創立記念のイベントを開催したいと思います。

多くの会員の皆さまから、創立記念にふさわしい企画を大募集いたします。

締め切りは2009年8月31日です。

### ◆創立20周年記念事業スタッフ募集

2010年の創立20周年記念イベント実施にあたって、ご協力いただけるスタッフを募集しています。ご希望の方は事務局までお申し出ください。

### ◆スペイン・サロン担当者交代

2008年4月から、スペイン・サロン担当者が交代します。新しい委員によるスペイン・サロンを現在企画中です。決まりしだい協会のホームページなどでお知らせします。

＜編集後記＞ AIYES通信も号数を重ねて50号となりました。振り返ってみると「いつの間にか」という感じですが、しかし「50号」という数字には大きなものがあります。それは協会の歴史であり、財産でもあるといえましょう。別稿で会報に対する思いを書かせていただきましたが、今まで多くの会員の方々に支えられてきたことに感謝し、これからも叱咤激励をお願いする次第です。（鈴木生雄）

編集委員 渡邊昭夫 久保田誠志 澤田真人 鈴木生雄 高柳治子 寺原瑛子 宮崎紗伎 山崎宗城 山下幸子 飯塚 劭

\* 投稿寄稿宛先 横浜スペイン協会会報係  
横浜スペイン協会URL <http://www.yokohama-spain.org>

次号の原稿締切は  
**7月10日(木)です。**  
投稿は800字以内、写真1点をお付け下さい。